

つづれさせ

松岡隆子

秋麗の光のなかを逝かれしや
露草の瑠璃の深さの悼みかな
覚めてまた先生のことつづれさせ
思ひては暝りゐては秋深む
一水の高きを落ちて澄めりけり

三重玉城町

魯田に神代の雨の降りしきる
城垣の隙間すき間の秋の声
搦手の翳りを精霊蟻蛸かな
藪枯し水は昏きを流れけり
木犀の香にゐてけふが遠くなる
母のこゑ紫苑の丈の後ろより
夜長の灯分かち互みにかかはらず